

日本原子力学会で炉物理部会賞を受賞

平成20年9月に高知工科大学で開催された原子力学会秋の大会において、炉物理部会賞を当社電力技術研究所原子力・材料グループの渡邊主任が受賞しました。

渡邊主任は、原子力発電所の起動領域中性子モニタ（SRNM）の指示値を精度高く予測する方法に関する研究成果に対して表彰されたものです。成果の一部は平成19年度の当社技術研究開発賞選考会でも報告されています。



受賞された渡邊主任



SRNM予測手法の検証試験が行われた
浜岡原子力発電所1号機中央制御室

炉物理部会賞は、原子炉物理学分野の若手研究者・技術者の奨励を目的として、本分野において優れた活動を行っている若手研究者・技術者に対して贈呈するものです。当社では初の受賞となりました。

SRNM：原子炉の安全性を確認する目的で、起動時など出力の低い領域において、核分裂で発生している中性子の数を監視しているモニタ。

エネルギー応用研究所 清水研究員がNPOセミナーで講演

「藻場造成・干潟の浄化機能測定に関する当社取り組み紹介」と題し研究成果を発表

平成20年9月19日 名古屋市桜華会館でNPO東海地域生物系先端技術研究会の水産部会セミナーにおいて、エネルギー応用研究所の清水浩視さんが講師として招かれ、「藻場造成・干潟の浄化機能測定に関する当社取り組み紹介」と題し、海域環境保全に関する研究成果を1時間にわたり講演いたしました。

講演内容は中部国際空港の藻場造成に適用されたカジメの種苗生産技術や、環境に配慮したアマモ増殖技術および三重県と共同で実施中のアマモ場造成実証試験（環境省事業）を主体に行いました。



講演の状況（講演を行う清水浩視副主査）

会場には行政・大学関係者を含め約40名が訪れ、カジメ藻場のCO₂固定機能の把握や干潟の浄化機能について熱心に聴講され、当社の環境保全に対する取り組みを理解いただけたようです。

2010年には、名古屋市でのCOP10開催を控えていることもあり、当地区での環境保全に対する関心の高さを伺うことができました。

当社は、将来の電源開発時に必要な環境保全技術として、藻場や干潟の保全技術および環境影響評価技術の開発に取り組んでおり、本研究はその一環として実施したものです。今後も、海域環境保全に関する研究開発に取り組み、CO₂削減や生態系保全につなげていきたいと考えています。



質疑応答の状況
（干潟の浄化機能等、活発な意見交換が行われた。）